

「キャストパーシャルデンチャーのデザイン・アナログとデジタルの臨床的アプローチについて」

昨今、超高齢化社会において義歯の需要が高まっているように感じる。

患者様にいかに快適に機能して永続性のある義歯を提供できるかが臨床においての成功の指標であると思われる。日々の臨床の中で欠損補綴はアプローチの仕方で患者満足度が特に大きく異なるように感じる。そこで私自身の院内技工の経験を含めた約24年の歯科技工歴を基に患者に寄り添う「心の技工学」とラボサイドにおける適合等のキャストパーシャルデンチャーの成功へのアプローチを川島哲先生の提唱する Tetsu Kawashima method による「美しく・機能するパーシャルデンチャー」を中心に提示したい。

また、近年デジタルデンチャーの成長・進化が著しい中においてのデジタル機器である CAD と 3D プリンターを用いてを臨床例を交えながら、アプローチと展望も合わせて提示したい。

「5人で紡ぐ1症例」

歯科技工士として働く中で、さまざまな症例に対応する機会がある。我々は歯科医院からの指示や患者の要望に応じて歯科補綴物を製作しているが、一つとして同じ症例は存在せず、時には判断に迷うこともあるだろう。

そこで本講演では、5人の歯科技工士がそれぞれの得意分野を活かし、1つの症例を通して、模型分析、CAD デザイン、シェードテイクの考え方、マテリアルの選択、仕上げの方法など、審美補綴装置の製作に不可欠な工程を、デモンストレーションを交えながら詳細に解説する。実際の臨床に役立つ情報を共有し、経験の浅い歯科技工士はもちろん、経験豊富な技工士にとっても新たな気づきや学びの機会となれば幸いである。